



## 2024年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年5月14日

上場会社名 株式会社まぐまぐ 上場取引所 東  
コード番号 4059 URL <https://www.mag2.co.jp>  
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 熊重 晃  
問合せ先責任者（役職名） 取締役CSO兼CFO（氏名） 浅野 匡志（TEL） 03(5719)5703  
四半期報告書提出予定日 2024年5月14日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
四半期決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家、アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

## 1. 2024年9月期第2四半期の業績（2023年10月1日～2024年3月31日）

（1）経営成績（累計）（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年9月期第2四半期	229	△3.0	3	—	3	—	3	—
2023年9月期第2四半期	237	△22.2	△39	—	△39	—	△49	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2024年9月期第2四半期	1.17		1.15					
2023年9月期第2四半期	△17.70		—					

（注）2023年9月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

## （2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年9月期第2四半期	1,039	897	86.4
2023年9月期	1,034	894	86.4

（参考）自己資本 2024年9月期第2四半期 897百万円 2023年9月期 894百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年9月期	—	0.00	—	—	—
2024年9月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2024年9月期の業績予想（2023年10月1日～2024年9月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	450	△5.2	2	—	2	—	1	—	0.44

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年9月期2Q	2,814,800株	2023年9月期	2,814,800株
② 期末自己株式数	2024年9月期2Q	49株	2023年9月期	49株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年9月期2Q	2,814,751株	2023年9月期2Q	2,814,751株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第2四半期累計期間	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(セグメント情報等)	8
(企業結合等関係)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、世界的な物価の高騰や不安定な金融資本市場の動向により、依然として先行きが不透明な状態が続いております。

当社を取り巻く事業環境において、プラットフォーム事業が属する静止画・テキストコンテンツ市場につきましては、「デジタルコンテンツ白書2023」（一般社団法人デジタルコンテンツ協会）によると2022年度の市場規模は前年比97.0%の3兆256億円となりました。また、当社のメディア広告事業が属するインターネット広告市場につきましては、「2023年日本の広告費」（株式会社電通）によると2023年のインターネット広告費（インターネット広告媒体費のみ）は前年比108.3%の2兆6,870億円となり、前年に引き続き高い成長率で推移しております。

当第2四半期累計期間における当社の業績は、売上高は229,819千円（前年同期比3.0%減）、営業利益は3,776千円（前年同期は営業損失39,479千円）、経常利益は3,779千円（前年同期は経常損失39,340千円）、四半期純利益は3,304千円（前年同期は四半期純損失49,815千円）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### ① プラットフォーム事業

プラットフォーム事業においては、メルマガ配信プラットフォーム「まぐまぐ！」および記事販売プラットフォーム「mine」が属しております。

当セグメントの軸である有料メルマガサービスに関して、メディア広告事業と連携してクリエイターの獲得を促進しております。また、ライブ配信サービス「まぐまぐ！Live」に関して、有料メルマガクリエイターによるライブ配信の利用促進を進めてまいりました。加えて、ユーザーインターフェースの改善に継続的に取り組んでいくことにより、プラットフォームの利便性の改善およびユーザビリティの向上に努めております。

その結果として、プラットフォーム事業の売上高は144,398千円（前年同期比6.3%減）、セグメント利益は76,992千円（前年同期比41.4%増）となりました。

#### ② メディア広告事業

メディア広告事業においては、Webメディアの運営および「Webメディアコンテンツ」・「メルマガコンテンツ」の広告枠販売サービスが属しております。

Webメディアにおいては、自社メディア「MAG2 NEWS（まぐまぐニュース）」「MONEY VOICE（マネーボイス）」「TRIP EDITOR（トリップエディター）」「by them（バイゼム）」および2023年12月4日付「（開示事項の経過）事業譲受に関するお知らせ」で公表しました「PLAYLIFE（プレイライフ）」を含めたメディアの知名度およびユーザー満足度の向上を模索してまいりました。PVおよびUU数が堅調に推移しましたが、広告単価は引き続き低い水準となっております。また、Webメディアコンテンツ・メルマガコンテンツの広告枠販売においては、需要の高まりのある業種を中心に広告販売の強化を行っている一方で、企業の広告出稿の縮小および広告単価低下の影響を受けております。

その結果として、メディア広告事業の売上高は85,421千円（前年同期比3.8%増）、セグメント利益は29,641千円（前年同期比65.5%増）となりました。

#### ③ その他事業

その他事業においては、イベント企画等が属しております。イベント企画はクリエイターの活動の支援と促進を目的としています。当社がクリエイターの活動を支援し、活性化のサポートをすることで、クリエイターの知名度と信頼性を向上させ、ブランディングに貢献しております。

当第2四半期累計期間においては、クリエイターを講師に迎えた有料の講演会の開催がなく収支が発生していませんが、新規クリエイターの開拓が進んでいることも踏まえ、今後の実施につきましては積極的に検討してまいります。

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 資産、負債および純資産の状況

#### (資産)

当第2四半期会計期間末における総資産につきましては、前事業年度末に比べ4,190千円増加し、1,039,157千円となりました。これは主に、現金及び預金が3,460千円減少した一方で、無形固定資産が8,886千円増加したこと等によるものであります。

#### (負債)

当第2四半期会計期間末における負債につきましては、前事業年度末に比べ886千円増加し、141,540千円となりました。これは主に、未払法人税等が1,048千円増加したこと等によるものであります。

#### (純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ3,304千円増加し、897,617千円となりました。これは、四半期純利益の計上により利益剰余金が3,304千円増加したことによるものであります。

### ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、前事業年度末に比べ3,460千円減少し、829,396千円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により獲得した資金は7,027千円(前年同期比61.8%減)となりました。この主な要因は、税引前四半期純利益を3,779千円計上したこと並びに、未払金が3,833千円増加したこと等によるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は10,487千円(前年同期比91.3%減)となりました。この主な要因は、無形固定資産の取得として10,487千円支出したことによるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は0千円(前年同期は0千円の使用)となりました。この主な要因は、配当金の支払いによるものであります。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年9月期の業績予想につきましては、2023年11月13日の「2023年9月期 決算短信」で公表した通期の業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年9月30日)	当第2四半期会計期間 (2024年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	832,856	829,396
売掛金	85,050	83,649
前払費用	12,255	13,361
未収還付法人税等	649	—
その他	476	382
流動資産合計	931,289	926,789
固定資産		
無形固定資産	—	8,886
投資その他の資産	103,677	103,481
固定資産合計	103,677	112,368
資産合計	1,034,967	1,039,157
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	15,503	15,093
未払法人税等	3,156	4,205
預り金	86,385	81,949
その他	35,608	40,292
流動負債合計	140,654	141,540
負債合計	140,654	141,540
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	319,328	319,328
資本剰余金	514,087	514,087
利益剰余金	60,931	64,236
自己株式	△35	△35
株主資本合計	894,313	897,617
純資産合計	894,313	897,617
負債純資産合計	1,034,967	1,039,157

## (2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)
売上高	237,031	229,819
売上原価	141,000	104,770
売上総利益	96,030	125,049
販売費及び一般管理費	135,510	121,273
営業利益又は営業損失(△)	△39,479	3,776
営業外収益		
受取利息	0	0
還付加算金	138	2
営業外収益合計	138	2
経常利益又は経常損失(△)	△39,340	3,779
特別損失		
訴訟和解金	10,000	—
特別損失合計	10,000	—
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△49,340	3,779
法人税等	475	475
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△49,815	3,304

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	△49,340	3,779
減価償却費	37,423	—
のれん償却額	—	1,113
受取利息及び受取配当金	△0	△0
還付加算金	△138	△2
訴訟和解金	10,000	—
売上債権の増減額 (△は増加)	7,943	1,401
仕入債務の増減額 (△は減少)	155	△409
未払金の増減額 (△は減少)	847	3,833
未払費用の増減額 (△は減少)	398	△1,611
預り金の増減額 (△は減少)	△4,155	△4,436
その他	9,273	3,382
小計	12,408	7,048
利息及び配当金の受取額	0	0
訴訟和解金の支払額	△10,000	—
法人税等の支払額	△475	△475
法人税等の還付及び還付加算金の受取額	16,443	453
営業活動によるキャッシュ・フロー	18,377	7,027
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△890	—
無形固定資産の取得による支出	△119,264	△487
事業譲受による支出	—	△10,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△120,154	△10,487
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△0	△0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△101,778	△3,460
現金及び現金同等物の期首残高	985,734	832,856
現金及び現金同等物の四半期末残高	883,956	829,396



(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じた金額に、繰延税金資産の回収可能性を考慮しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高および利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	プラットフォーム	メディア広告	計		
売上高					
外部顧客への売上高	154,085	82,296	236,381	650	237,031
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	154,085	82,296	236,381	650	237,031
セグメント利益又は損失(△)	54,432	17,913	72,346	△398	71,947

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、イベント企画等を含んでおります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額および当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	72,346
「その他」の区分の損失(△)	△398
全社費用(注)	△111,426
四半期損益計算書の営業損失(△)	△39,479

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

当第2四半期累計期間(自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	プラットフォーム	メディア広告	計		
売上高					
外部顧客への売上高	144,398	85,421	229,819	—	229,819
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	144,398	85,421	229,819	—	229,819
セグメント利益	76,992	29,641	106,633	—	106,633

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、イベント企画等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額および当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	106,633
全社費用(注)	△102,856
四半期損益計算書の営業利益	3,776

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「メディア広告事業」において、株式会社バズクリからの事業譲受により、のれんが増加しております。当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期累計期間において、10,000千円であります。

## (企業結合等関係)

## 取得による企業結合

## (1) 企業結合の概要

## ① 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 バヅクリ株式会社  
事業の内容 PLAYLIFE事業

## ② 企業結合を行った主な理由

当社は2014年にWebメディアをサービス開始してから、多岐にわたるジャンルのメディアを立ち上げ、利用者や顧客の拡大を進めてまいりました。バヅクリ株式会社が行う国内お出かけ情報メディア「PLAYLIFE」は、当社が展開する旅行メディアとシナジーを生みやすく、今後、当社が有するノウハウを共有し、既存メディアとのシナジーによるメディア広告事業の成長を目指し、2023年12月4日に事業譲渡契約を締結いたしました。

## ③ 企業結合日

事業譲受け開始日2023年12月5日

事業譲受け終了日2024年2月28日

## ④ 企業結合の法的形式

現金を対価とする事業譲受

## ⑤ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として事業を譲り受けたためであります。

## (2) 四半期累計期間に係る四半期損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2023年12月1日から2024年3月31日まで

## (3) 取得した事業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	10,000千円
取得原価		10,000千円

(注)取得の対価には、条件付取得対価（アーンアウト対価）を含めておりません。条件付取得対価については、一定期間の業績の達成水準に応じて、0～6,000千円の範囲内で追加の支払いが発生する契約となっており、現時点では確定しておりません。追加の支払いが発生した場合、取得時に発生したものとみなして取得原価を修正し、のれんの金額及びのれんの償却額を修正することとしております。

## (4) 主要な取得関連費用の内容及び金額

該当事項はありません。

## (5) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

## ① 発生したのれんの金額

10,000千円

## ② 発生原因

今後の事業展開から期待される将来の超過収益力によるものであります。

## ③ 償却方法及び償却期間

3年間にわたる均等償却